

東京天台

平成二十六年
春彼岸号

発行所
天台宗東京教区

杜多徳雄

〒107-0062 東京都港区南青山1-3-22
TEL.03-5785-3481

<http://www.tendaitokyo.jp/>



密教曼荼羅(部分)

結縁灌頂 〜仏さまとご縁を結ぶ密教儀式〜

結縁灌頂は、密教の奥義の一端を体感できる重要な儀式のことです。「結縁」とは、仏さまとご縁を結ぶことを意味します。仏の世界に目覚め、

仏の教えに帰依して生活することを自覚する儀式といえましょう。「灌頂」とは、古代インドにおいて、国王の即位式の際に、世界の四大海水を

入れた宝瓶の水を王となるべき人物の頭の頂に灌いで、正統な継承者とすることを意味していました。これにより王を継ぐ者は王としての自覚を得たことでありましょう。また、仏教では密教の入門儀式として

「灌頂」が行われてきました。仏さまの慈悲の水を頭上に灌ぐことで、そのお徳を我々の一身にいただくことと意義づけられてきました。

投華得仏

結縁灌頂では、受者(灌頂を受ける者)が目隠しをされて秘密の道場に導かれ、壇上に敷かれた曼荼羅の前立ち、手にした花びらを投じます。その花びらの落ちたところの仏さまが、受者の守護

仏となります。このことを「投華得仏」といいます。そして受者は、仏さまと深いご縁が結ばれたことを強く自覚することとなります。日本では、延暦二年(805)に伝教大師が京都の高雄山寺(現・真言宗神護寺)にて結縁灌頂を初めて行った記録があります。

今年の教区団参

今年の天台宗東京教区の団参(団体参拝)は比叡山延暦寺にて、この結縁灌頂を実際に受けることができる絶好の機会です。密教の教えに基づいたこの神秘の儀式は、荘厳な仏教の一面を檀信徒の皆さまが実際に体感できる貴重な場となります。結縁灌頂を広められた慈覚大師の一一五〇年御遠忌の勝縁に、み仏とご縁を深めていただき心豊かな生活を送られますよう、多くの方々のご参加をお待ちしております。

日程は平成26年10月〜11月の予定です。お問い合わせは、菩提寺または東京教区宗務所まで。

「現代社会と仏教」

「おもてなし」のこころ

東京五輪招致活動の最終プレゼンで、滝川クリステルさんが日本文化のすばらしさを世界にアピールした「おもて・な・し」という言葉は、昨年の流行語大賞にも選ばれました。

この「おもてなし」は、「もてなし」に丁寧語「お」を付けたもので、「もてなし」の語源は「モノを以て（持つて）成し遂げる」といわれておられます。また、もう一つの語源は「裏表なし」ともいわれており、裏表のない「心」でお客様をお迎えするという意味になります。つまり、対価としてのチップが発生するような「サービース」とは違い、見返りを求めない対応といえるでしょう。

仏教では、私達が仏の境地（彼岸）に到るための六つの修行法として六波羅蜜が説かれ、その第一番目に「布施」があげられています。布施の「布」は分け隔てなく、「施」は文字

通りほどこすという意味です。一般的に考えると、与えた人よりも与えられた人の方が得をするように思えますが、「見返りを求めない心」で行われる布施は、ほどこした人の方が幸せな気分になり、与えられた人よりも与えた人を幸せにするものではないでしょうか。

『雑宝藏経』に「無財の七施」という教えが説かれています。特別にお金や物を使わなくても、周りの人々に少しでも喜んでいただける方法がある、という教えです。

- 一・温かい眼差しで接する（眼施）
- 二・笑顔で接する（和顔悦色施）
- 三・優しい言葉をかける（言辞施）
- 四・自分の身体で奉仕する（身施）
- 五・他のために心をくばる（心施）
- 六・場所や席を譲り合う（床座施）
- 七・休息の場に家を提供する（房舎施）

この「無財の七施」は、まさに「おもてなし」の心を実践するものといえるでしょう。日常生活の中の布施行のひとつとして、「無財の七施」を心がけてみてはいかがでしょうか。

団 参 報 告

みちのく路 慈覚大師ゆかりの地をたずねて

昨年の教区団参は、慈覚大師 1150 年御遠忌にあたり、大師ゆかりの地を巡りました。

大師開山の中尊寺や毛越寺は、平成 23 年に世界文化遺産に登録されたこともあり、特別に什物を拝見させていただきました。

山寺（立石寺）では、大師作の秘仏・薬師如来像が 50 年に一度のご開帳の年に当たり、間近で拝するまたとない機会に恵まれました。

また、気仙沼市の観音寺では、震災犠牲者の慰霊法要が檀信徒と共に行われました。未だに震災の傷跡が残る被災地を巡ったなかでも、復興のシンボルの「奇跡の一本松」を目の当たりにした一行は、早期復興を一心に願いつつ、みちのく路をあとにしました。



陸前高田「奇跡の一本松」

ご協力ありがとうございました

昨年12月14日、年末恒例の全国一斉托鉢が、浅草寺境内をお借りし行われました。寒風の中、僧侶・檀信徒43名が参拝の方々にご協力をお願い致しました。



また天台宗のキャラクター「しょうぐうさん」も托鉢に参加。子供達に囲まれ和やかな托鉢となりました。集まった浄財は下記

【寄付先】

地球救援事務局	100,000円
あしなが育英会	100,000円
港区社会福祉協議会	21,816円

第44回 一隅を照らす運動東京大会

平成26年6月11日(水) 午後1時 開会

浅草公会堂

法要

導師 輪王寺門跡門主 神田秀順大僧正
天台宗東京教区寺院・天台声明音律研究会
天台雅楽会・叡山講福聚教会

講演

演題

「よき種をまく仏教」

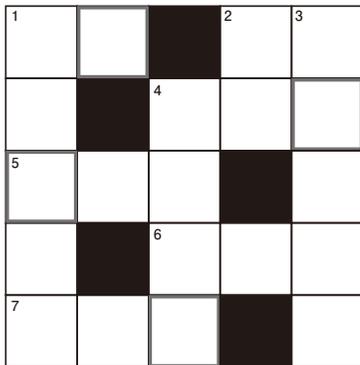
うえだ のりゆき

上田紀行氏

文化人類学者、医学博士
東京工業大学リベラルアーツセン
ター教授
兼任・社会理工学研究科価値シス
テム専攻



てんたい クロスワード



以下のタテのカギ、ヨコのカギにしたがって、マスに言葉を入れてください。

すべてのマスを埋め終わったら、4つの太枠のマスの文字を並べ替えて、ヒントに相応しい言葉を作ってください。

ヒント「〇〇〇〇灌頂」を受けて、仏さまとのご縁を結びましょう。

タテのカギ

1. 天台宗をひらかれた方はどなた?
2. そんなものでも、無いよりは〇〇だ。
3. 天台宗の総本山は〇〇〇〇〇延暦寺です。
4. 団体参拝で〇〇〇〇旅館に宿泊した。

ヨコのカギ

1. 英語では「サーモン」と言います。
2. 雪道を歩いて足先の感覚が〇〇してしまった。
4. 仏となるための〇〇〇を仏教といいます。
5. 故(ふる)きを温(たず)ねて新しきを知る。「温故〇〇〇」。
6. 足がしびれますね。
7. インドのカレーにも使われています。別名ターメリック。

【答えは4面の下部に】

仏教豆知識 ⑥ 『お守り』

神社仏閣へ詣でて、神仏に心願成就を願うのは昔も今も変わらない我が国の風景であり、人々が幸福を願うのは人情の常であります。また、その折に、おみくじを引いたり、お守りを求めたりするのは参詣の一つの楽しみとも言えます。

お守りは、神仏のご利益を願う人々の思いに込めるように平安時代以後広まったといわれています。宝前に供えて加持祈禱したものを授与するお守りは、信仰の対象や祈願の内容によって多種多様なものがあります。お守りを持つことで、神仏

の加護を頂いてご縁を結び、さらに日頃から肌身離さずに携帯することで魔除けのご利益があると云われてきました。ところで、お守りの中には何が入っているのでしょうか？本来は見るものではないかもしれませんが、中には木や紙あるいは布に、お寺のご本尊の御影や真言などが写された札が入っており、神社では

社名・神名・祈禱文が写されたものが入っています。また時折、「お守りはいつまで使えるの？」という質問があります。基本的には一年間と考えます。また、願いが成就した時は、御礼参りとして求めた寺社に持参して納めるのが一般的です。

人生は順調とは限りません。誰しも幸福を願わぬものはありませんが、苦しみに対して人間の力には限りがあるものです。普段は信仰心のない人でも神仏の分身であるお守りを携帯することで、その恩恵にあずかり、身を護って頂くための祈りの一つの手段がお守りなのではないでしょうか。



天台の寺めぐり 37 浅草周辺

大行院

浅草寺宝蔵門の左側に大行院は位置している。浅草寺開山の慈覚大師により、貞観年間(859〜877)に浅草寺観音堂の東二十六間の位置に建てられたと伝わる当院は、かつては浅草寺の末寺であった。



大行院本堂

本尊不動明王は、大師が老翁(仏法守護の神の化身)の言葉に従い、下野国二荒山に出現した不動明王を彫刻された。昭和二十年の空襲により再度堂宇や宝物を焼失するも、本堂はじめ三宝荒神堂の再建を果たし今日に至っている。

常福寺

現在、寿町にある常福寺は創建以来幾度と移転を重ねてきた。弘前藩主の津軽信牧(のぶひら)が天台大僧正と懇意で、自ら弟子となり、国元の禅宗から天台宗へ改宗。当寺を建立し菩提寺とした。



常福寺本堂

開山は天海の弟子・本祐。「救世の名臣」津軽多膳貞升の墓が今も残る、弘前藩主津軽家ゆかりの寺院である。ご本尊の阿弥陀如来は、幾多の災難を免れ今日に伝わる。院号は不動院。浅草寺の南西に位置する裏鬼門守護の要として、厄除方除の不動明王を祀る。

華藏院

開創は慶長十六年(1611)。伝長法印によると伝わり、江戸時代は民間信

仰を集めていた。寛永寺の末寺に編入された後に寛永寺住職の隠居寺となり、明治維新の際には官幕両軍の殉難者を供養する地藏尊が建立された。明治三十五年(1902)に長野の善光寺より一光三尊如来(一つの光背の中に、阿弥陀如来、観音、勢至の両菩薩を収めるお姿)を勧請して本尊とし、善光寺の出張所となる。その後、善光寺東京別院と呼ばれ、東京万人講をはじめ各種の講ができる。全盛期には信徒数万を数え、一年に何度も臨時列車を出して参拝を行うほど隆盛を極めた。しかし第二次世界大戦により次第に参拝は中止さ



クロスワードの答え「けちえん」=結縁



華藏院本堂

れ、東京大空襲により本堂、伽藍のすべてを焼失してしまいが、戦後昭和二十三年に品川の毛利家より祖霊殿を譲り受け、移築されたものが現在のの本堂である。